2013年（平成25年）
第72号
（12月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

第９回ＷＣＲＰ世界大会　ウィーンで開催　～現地から速報～

世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰ）第 9 回世界大会がオーストリアのウィーンで 11 月 20 日から 22 日まで、「他者と共に生きる歓び」をテーマに開催されました。90 以上の WCRP 各国委員会および地域委員会の代表、国際トラスティ・政府代表・国連等の国際機関、オブザーバーを含め約 700 人が参加しました。

開会式で、潘基文・国連事務総長とフランシスコ・ローマ教皇のメッセージが読み上げられました。引き続き「紛争予防と解決を通して」「正しく調和のとれた社会を通して」「地球を尊重する人間開発を通して」「宗教・諸宗教教育を通して」について全体会議や分科会が持たれている。

今回の世界大会に、京都教会渉外部から田中規之部長代理と古田雅章平和活動推進委員長、また立命館大学生の影山優華さんが参加しました。以下に田中部長代理からの報告を掲載します。（４面に関連）

今回の WCRP は、**「ウエルカミング・ジ・アザー（他者と共に生きる歓び）」**をテーマに、アブドッラー国王宗教・文化間対話のための国際センター**「KAICIID（カイシード）」**との共催で、永世中立国であるオーストリアのウィーンでの開催となりました。

前回の京都大会から７年が経過し、世界情勢も刻々と変化する中での大会でしたが、その中で印象に残った点を挙げてみたいと思います。

まず一つ目は、**北朝鮮の代表が参加した**ことです。前回の京都大会では、当時の小泉純一郎総理が開会式に参加しましたが、北朝鮮の代表団には日本政府からの入国許可が下りず、非常に残念な思いをしました。そのような経緯があったからでしょうか、今回の閉会式には**韓国と北朝鮮の代表者が互いに手をつなぎ合ってステージに登壇する**という場面がありました。

韓国と北朝鮮の代表団が手をつないで登壇

そして、北朝鮮の代表者の**「朝鮮半島は分断されているが、宗教には国境はありません」とのスピーチに、会場からひときわ大きな拍手と歓声が起こりました。**WCRP の素晴らしさを改めて実感できた、感動の瞬間でした。

いま、アジアの国々との間で、領有権などの難しい問題が山積していますが、諦めずに対話を続けていけば必ず道は開かれる、との思いを強くしました。

二つ目は、**日本から大島九州男議員、藤田幸久議員、白眞勲議員の 3 名の国会議員の方が参加されたことです。**閉会式の前に開かれた「インターナショナル・トラスティーズ会議(国際評議員会)」には、ジャパニーズ・トラスティーズのメンバーと共に、藤田議員と白議員も参加されました。WCRP のウイリアム・ベンドレイ国際事務総長からは、**「日本から国会議員の方がご参加下さったことは、非常に素晴らしく意義のあることです」**との、コメントがありました。

世界を平和にするには、**宗教と政治が互いに協力しあわねばなりません。**そういった意味では、今回の３名の国会議員の方々のご参加は、今後につながる大きな意味を持つものであったと思います。

三つ目は、**京都から二人の青年が参加した**ことです。先達が開いて下さった宗教協力の道を青年が受け継ぎ、そして次の世代に伝えて行くことが、先達に対する何よりのご恩返しであると思います。

時々刻々

京都は紅葉真っ盛りです。テレビなどでその映像が流されています。そのためもあってか、秋の風を満喫しようとする観光客で、街中はいつになく活況を呈しています▼百人一首に「小倉山　峰のもみぢば　心あらば　いまひとたびの　みゆきまたなむ」があります。嵯峨野の美しい紅葉を天皇にも見せてあげたいと歌ったのです▼見たもの、聞いたことに感銘を受けたとき、他の人にも体験してほしいと願うのは誰もがもっているものでしょう。自分のものだけにしたいと思うのは、人間本来の姿ではないと聞きます▼世界平和を願い、子供たちにいい未来を残そうとするのも、その心の表れでしょう。身近なところから、できることに取り組むことが大事です▼今年もあと一か月。自分が体験したこと、心に残ったことを振り返り、良かったと思うことを、周りの人に伝えることも大切なです。

今月のことば　～寛容の真精神を学ぶ～

京都教会長　佐藤益弘

平成２５年も師走を迎えました。ほんとうに月日の経つのは早いと実感しております。本年も多くの皆様に大変お世話になり、支えていただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

さて、本会機関誌『佼成』12 月号における会長先生ご法話は、**「他者を歓迎する―寛容」**であります。

最初のところで、毎田周一師の言葉や、マハトマ・ガンジー翁の言葉を引用され、「世界は一つ」との認識が重要であり、その真実の認識に到達するところにほんとうの意味の寛容があると教えて頂きました。**寛容とは平たくいえば「みんな一つなのだ」と気づくこと**であり、それが寛容の真精神とおっしゃっています。別の言い方をすれば、一乗の精神そのものと言ってもよいのではないかと思います。その一乗の精神について会長先生から、「人は本来、皆一つの乗物の同乗者なのだから、心をおおらかに、互いを認め合い、協力し合おう」という言葉で分かりやすく教えて頂いております。その認識に到達するために、私どもは在家仏教徒として、自我を捨てて神仏に帰依する人になるための修行精進を続けさせて頂いているのであります。具体的には、日常生活の中で、**「すべては自分」、「まず人さま」という内省と共に無我の実践を繰り返す**ことによって、寛容の精神で人生を歩めるようになれると受けとめさせて頂きました。

私は、日ごろ自分がどれだけ他者を歓迎できているだろうかと振り返ってみました。口では『歓迎』という言葉を親しい友人らに対してはよく使います。しかし、まったくの赤の他人や、嫌いな人を歓迎できるかというと、なかなか難しいものと言わざるを得ません。例えば、電車に乗っている際、私が空いている席に座ろうとしたところ、横から走ってきた女性が素早く着席されたとき、その女性を歓迎できるかというと、難しいものです。特に自分のバッグを放り投げるようにして座席を確保するような人に出会ったときなど、「許せない！」と言いたくなります。でも、その女性が私の９０歳を過ぎた実母であったとしたら、「お母さん、座れてよかったね！」と喜ぶでしょう。また、高速道路を制限速度で走行中、後ろからパッシングされ、そのうえ猛スピードで追い越されたとき、不埒な奴！と怒ることでしょう。しかし、追い越し車両に乗っている人が重病人を抱えた知人の車であったなら、「早く行ってあげて！」という気持ちになり、一瞬の怒りも祈りに変わることにもなるかもしれません。相手の人が自分と関係があるか無いかだけの違いで、怒ったり、嬉しかったりと思う自分です。**世界は一つ、みんな仏の子という大きな心になると、自我から離れて、「他者を歓迎する」ことが出来る**ものと確信しました。

そういう意味では、経典の終わりにある『普回向』の「願わくは此の功徳を以て　普く一切に及ぼし　我等と衆生と　皆共に佛道を成ぜん」を読経する際に、「世界は一つ」という心で繰り返すことで、仏さまと共に、そして他者と共に生きる歓びを味わいながら、自分の器を更に大きくすることが叶うのだと気づかせて頂きました。

～笑顔あふれた七五三～

11 月４日の開祖さまご命日後、七五三式典が行われ、39 名の子供たちが参拝しました。

七五三を迎えるにあたり、生まれた時の写真と大きくなった時の夢を書いた「ゆめシート」を法座席横に掲示していました。今回、一人ずつ写真撮影を行い、教会長から自筆のメッセージをいただきました。無事に大きくなれたことに感謝すると共に世のために役立つ人になってもらいたいと願いました。

式典中、各支部の支部長さんから千歳飴を頂き、笑顔とかわいい声が教会にあふれた一日でした。

～祇園祭ボランティア発足３０周年～

11 月９日、八坂神社常磐新殿において「京都・祇園祭ボランティア 21 30 周年記念行事」が行われ京都教会青年部代表者も出席し、その 30 年の歩みをかみしめました。

１部で、祝辞に立った藤田副市長は「世界に誇る祇園祭をボランティアで支えようとする志しが 30 年続いたことの素晴らしさや、八坂神社のしきたりをボランティアメンバーがそのまま継承され、曳かせて頂くという謙虚な姿勢で取り組まれていることの素晴らしい」と述べました。

２部の懇親会では森八坂神社宮司から「祇園祭はご町内・ボランティア・八坂神社が一体となって成し得るお祭りである」と述べ、これからのボランティア活動に期待を寄せられました。

なお今回、京都府・京都市からそれぞれ当ボランティアに感謝状が贈られました。

「お陰さまで」　～二支部が発足周年記念式典を開催～

●伏見支部３０周年記念式典

伏見支部は 1983 年（昭和 58 年）に城南支部から独立して、京都教会 10 番目の支部として発足しました。今年はちょうど 30 年目にあたるところから、11 月３日に藤森神社（伏見区深草）の参集殿において伏見支部 30 周年記念式典が行われました。

式典には、佐藤教会長をはじめ、歴代の支部長、地元の府議会・市議会議員も列席され、会員 155 名の参加がありました。最初にスライドショーがあり、懐かしさと感動が会場を包みました。

責任者の越中支部長は「これからも『やさしく　温かく　思いやり』のある支部家族の絆を深めながら、みんなと一緒に仏道を歩んでいきます」と決意を語っていました。

●乙訓支部 40 周年記念式典

11 月 23 日、教会法座席及び体育館で乙訓支部発足 40 周年式典と祝賀パーティーが開催され、130 名の会員が参加しました。

式典では 40 年間の歩みをまとめたＤＶＤが放映され、涙や笑いを誘いました。佐藤教会長は「何のために、誰のために佼成会が出来たのか、乙訓支部もこの地域に住む人のために幸せになって頂くために発足したこと、その歩みが４０年間変わることなく続いてきた」と周年の意義を説明し、「今日の式典はその歩みの確認の場であり、今後も修行精進し続けましょう」とあいさつしました。

祝賀パーティーではレクや踊りで楽しい時間を過ごし、参加者一同精気を養うことができました。

～各地で明るい社会づくり運動を展開～

◆中央明社　美化運動

11 月４日、中央明るい社会づくり運動の会は京都市まちの美化推進事業団は～世界の京都・まちの美化市民総行動～「京都・美化まち大作戦」に参加しました。

当日午前１０時過ぎに市内全域から市民が京都市役所前広場に集まり、市役所周辺の清掃活動や市民への啓発活動としてのパレード、街頭ＰＲを実施しました。

◆伏見明社　清掃奉仕

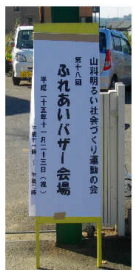
11 月 17 日、伏見明るい社会づくり運動の会は、藤森神社（伏見区深草）境内の清掃奉仕を行いました。伏見明社のメンバーに地域の住民も加わり、23 名の参加がありました。

清掃奉仕の後、参加者全員が本殿にて平和祈願を行いました。神官の祈祷に続き、「祈りのことば」を全員で唱和し、平和を祈りました。

◆山科明社　バザー

11 月 23 日、山科明るい社会づくり運動の会は大宅フラワーガーデン（山科区大宅）において第１８回バザーを開催しました。事前にチラシを配布。バザー開催を案内し、バザーへの参加を呼びかけました。

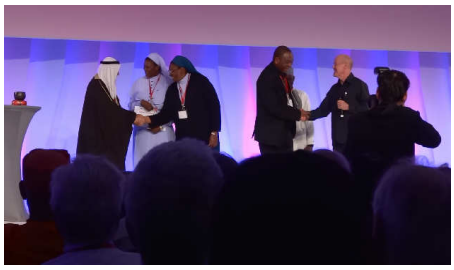
提供品の販売、加えて採れたての野菜や生花、手作り品などの出品、焼きそば、焼きとりなどの模擬店など、地元密着のバザーでした。



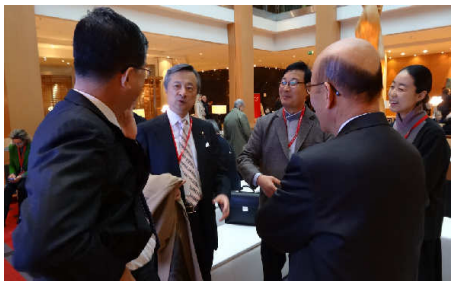
フォト・レポート　～WCRPⅨ（ウィーン大会）から～

◆京都のメンバーが撮影した写真やWCRP日本委員会が公開した写真で、WCRPⅨの会場内の光景を眺めてみましょう。

（WCRP日本委員会HPより）　上段：開会式　下段：分科会／全体会議



閉会式の光景／舞台には各宗教者指導者が登壇／ベントレイ事務総長らが大会の成功を祝福しあう



国際トラスティーズの会議　　韓国・北朝鮮代表者の記念撮影　　白眞勲議員と韓国の円仏教代表者

今回は紙面の都合で、WCRPⅨの光景を一部しか掲載できませんでした。次号（20014年１月１日号）でも続きを紹介する予定です。

渉外部からのお知らせ

●１２月の主要行事予定

１２月	１日	朔日参り、布薩の日	９：00～
	４日	開祖さまご命日（京都教会発足記念日）	９：00～
	８日	成道会	９：00～
	１０日	脇祖さまご命日	９：00～
	１５日	釈迦牟尼仏ご命日	９：00～
１月	１日	元旦参り	６：30～

●メッセージ

早いもので今年も師走を迎えます。今年一年の出来事を振り返ると、ロシアに隕石落下、韓国大統領就任、新ローマ法王選出、テレビドラマ『半沢直樹』の大ヒット、2020年東京オリンピック招致決定、台風18号よる初の特別警報発令、楽天イーグルス初の日本一などなど。例えどんなことがあっても「倍返し」というような発想は避けたいものです。